



愛媛県立医療技術大学広報誌

砥礪^{しれい}

May
2025
vol.21

Contents

■学長からのメッセージ	2
■学部長／研究科長挨拶	3
■開学20年のあゆみ	4
■開学20周年記念市民公開講座	8
■開学20周年記念式典・祝賀会	10
■開学20周年記念事業	11
■大学の風景	12
■大学院の活動	16
■令和6年度教職員紹介	17
■地域交流センター事業	18
■図書館紹介	19
■インフォメーション 図書館利用案内・学年暦・編集後記	20

開学20周年を迎えて

愛媛県立医療技術大学は、昭和63年4月に、愛媛県における高度医療人材育成を目的とし、愛媛県立医療技術短期大学としてアートの里砥部町に創設されました。そして、平成16年4月、多くの方々のご尽力により愛媛県立医療技術大学となり、県民の皆様には「医技大」の愛称で親しまれながら、昨年大学開学20周年、短期大学創立から数えて36周年を迎えました。これまでに本学から多くの卒業生を輩出し、県内外の医療現場で中心的役割を担って活躍しています。

開学以来、本学の理念と目標は五つの柱に集約されます。まず一つ目の柱は、「学生中心の大学」です。学生は大学の宝です。常に、学生の意見や要望に耳を傾け、学生の立場に立った教育を推進し、本学学生の夢と希望を叶えることができる大学運営に努めています。二つ目は、「使命を果たせる大学」です。改めて申すまでもなく、大学の使命は教育と研究です。全ての教員は、学生一人一人の個性に合ったきめ細やかな教育を実践しており、本学学生の潜在能力を最大限引き出すよう努力しています。研究活動も活発に展開しており、その成果は、多くの学会発表や論文として公表されています。三つ目は、「国際性豊かな大学」です。これからは地方大学といえども、国際感覚の涵養は益々重要になってきます。本学は英語教育に力を入れるとともに、台湾高雄医学大学と連携協定を締結し、毎年それぞれの大学から学生の相互派遣と受け入れを行っています。四つ目は、「地域に根差した大学」です。本学は地域交流センターを設置し、日頃から地域住民の方々との交流を促進しています。また、学生は、愛媛県下の医療機関や保健所などのご協力によって、地域の現場で実践的医療を体験しています。そして最後の五つ目の大きな柱は、「愛媛に貢献できる大学」です。本学の最大の使命は、愛媛の医療に貢献できる医療人の育成です。そのためには、できるだけ多くの卒業生を地元愛媛に定着させ、卒業後も継続的に教育できる指導体制が必要と考えています。

以上の5つのキーワード、すなわち、「学生中心の大学、StudentのS」、「使命を果たせる大学、MissionのM」、「国際性豊かな大学、InternationalのI」、「地域に根差した大学、LocalのL」、そして「愛媛に貢献できる大学、EhimeのE」、これらの頭文字を合わせた、SMILE；スマイル、愛顔あふれる大学が愛媛県立医療技術大学です。

本学は開学20周年を迎え、新たな出発点に立つこととなりました。大学ならびに医療を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。それらの変化に取り残されることなく、また流されることなく、本学の目指すべき道をしっかりと見つめて、決して現状に満足せず、新たな改革を進め、力強く前進したいと考えています。皆様には引き続き暖かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



学長 安川 正貴
Masaki Yasukawa

大学開学20周年から 次の10年に向けた一歩

2024年度は大学開学20周年の節目にあたり、市民公開講座、記念式典ならびに祝賀会の開催、これらに合わせた新聞広告、記念品（砥部焼カップ）の製作、20年の歩み動画製作等、いくつかの記念事業を実施しました。詳細については、別紙面にて紹介させていただきますが、おかげさまでいずれも好評で、まだ20周年ながら本学らしく、温かい事業ができたのではないかと安堵しております。ご協力またご参加くださいました皆様方に改めて御礼申し上げます。



学部長
研究科長 中西 純子
Junko Nakanishi

個人的な話にはなりますが、私は本学の前身である短期大学に1988年の開学と同時に着任し、大学の発展とともに年を重ねてきました。勤続37年になります。短期大学開設時や大学開学当時のことを知る人が少なくなった今、今回、20年の歩みを関係各位の方々に知っていただけたこと、また、その歩みを共に創ってきた先輩諸氏の皆様と一緒に振り返りながら旧交を温める機会となりましたことを心から嬉しく思っております。

医療技術大学は**技と思考を鍛え、医療に貢献する人材の育成**を目指して今日までに約4,500名の卒業生・修了生を輩出しています。臨床現場で管理職を務める人、卒業後にさらなる専門資格を取得し高度な実践者として現場を牽引している人、大学教員になり後輩の育成に貢献している人等、各方面で活躍されており頼もしい限りです。次の周年記念事業を開催する時には、さらに多くの卒業生たちが各方面で要職に就き、活躍されていることでしょう。そういう卒業生・修了生の活躍が在校生やこれから入学してくる人たちの目標やモデルになり、バトンをつないでいく、そんなつながりが歴史をつくっていくであろうと期待しています。次の10年、世の中はどのように変化しているのか、予測が難しい時代ですが、どんなに変化しても人々の命や健康を支える「ヘルスケア人材」の存在は欠かせません。時代が求める技と思考にアンテナを張りながら、「ヘルスケア人材」であることに誇りとやりがいをもてるよう、これからも大学は人材育成に努めていきます。

※「ヘルスケア人材」とは、専門職の垣根を超えた議論を実現するために日本学術会議に設置されている健康・生活科学に関する分科会で提案された名称です。

愛媛県立医療技術大学

開学20年のあゆみ

1988

愛媛県立医療技術短期大学開学（第一看護学科・第二看護学科・臨床検査学科）

1991

愛媛県立医療技術短期大学専攻科開設（地域看護学専攻・助産学専攻）

2004

愛媛県立医療技術大学開学（看護学科・臨床検査学科）

地域交流センター設置



2007

愛媛県立医療技術短期大学閉学

県立大学ならではのユニークな科目



球技大会



サークル活動



愛媛における高度医療人材育成の拠点として砥部の地に誕生し、短期大学から36周年、大学開学から20周年、大学院開設から10周年を迎えました。

2010

● 公立大学法人化



さらに充実した実習科目

▲ 病理組織細胞学実習 ▲ 生理機能検査学実習



大学の特色を反映した学生祭



2011

東日本大震災後の復興支援のため、学生と教職員が、現地でのボランティア活動に参加

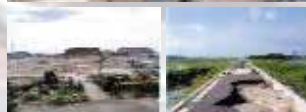
2012

● 助産学専攻科開設



2013

保健科学部入学定員増（看護学科75名、臨床検査学科25名へ）



Student 学生中心の大学
Mission 使命を果たせる大学
International 国際性豊かな大学
Local 地域に根差した大学
Ehime 愛媛に貢献できる大学

2014

● 大学院開設
 (看護学専攻・医療技術科学専攻)



研究風景

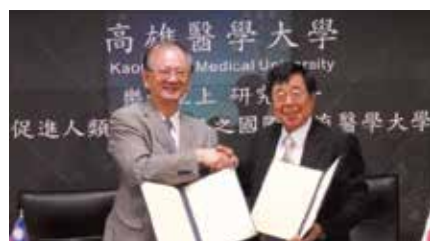


修了式



2018

● 台湾高雄医学大学と協定締結

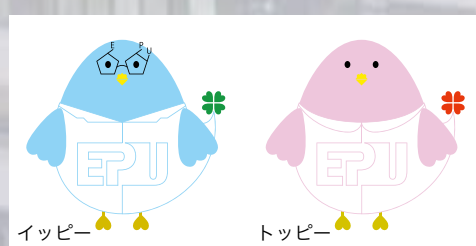


第1回高雄医学大学短期海外研修



2019

● 学歌を制定・公式キャラクター「イッピー」と「トッピー」のお披露目



2024

大学開学20周年

2022 2023

愛媛大学と包括連携協力協定締結

愛媛県総合保健協会と包括連携協定締結

愛媛県臨床検査技師会と包括連携協定締結

愛媛県及び松山市と新型コロナウイルス感染症に係る保健師等応援派遣の実施に関する協定締結

2021

愛媛大学大学院医学系研究科、愛媛県立衛生環境研究所、岡山理科大学獣医学部と感染症の教育・研究に関する包括的連携協定締結



砥部町との連携協力協定調印式



◀学章ピンバッジ
(砥部焼製)

リモートによる講義の実施

新型コロナウイルス感染症のためバーチャル卒業式の実施

砥部町と地域の保健福祉や教育に関する連携協力協定締結



バーチャル卒業式



開学20周年記念式典

創立20周年記念市民公開講座

本学は昨年度に愛媛県立医療技術短期大学から愛媛県立医療技術大学になって20周年を迎えることが出来ました。これを記念して、令和6年7月14日(日)に20周年記念の市民公開講座を愛媛県医師会館において開催いたしました。当日は、一般市民の皆様や医療関係者、本学にゆかりのある方々など約180名のご参加があり、会場は大変な賑わいとなりました。公開講座では、政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会会長を務められた尾身茂先生をはじめとする豪華な講演者の皆様にご登壇いただきました。

まず安川学長から、開会のご挨拶と「医技大のこれまでの歩みとこれから」として、医技大の歴史と未来についてご報告をさせていただきました。次いで愛媛県臨床検査技師会前会長・高村好実先生より「臨床検査技師の医療と地域社会への貢献」と題してご講演を賜り、愛媛大学医学部感染制御学講座教授・田内久道先生からは「愛媛県での新型コロナウイルス感染症の経緯と感染症人材育成」と題してご講演を賜りました。いずれのご講演も誠に格調高い内容で、会場の皆様は大変熱心に聞き入っておられました。座長の労をお取りいただきました本学臨床検査学科長・則松良明先生、今治市医師会市民病院病院長・石井榮一先生、大変ありがとうございました。

引き続き、公益財団法人結核予防会理事長、元新型コロナウイルス感染症対策分科会会長・尾身茂先生から「グローバルな視点からのこれからの感染症対策」と題してご講演を賜りました。尾身先生からは、新型コロナ禍の教訓を踏まえた新たな感染症のパンデミックへの備えについて大変力の入ったご講演をいただきました。予定時間を超過するほどの熱弁に、参加者には熱心にメモを取る姿が多く見られました。愛媛県立中央病院病院長・中西徳彦先生に座長の労をお取りいただきました。誠にありがとうございました。

最後に、中西学部長よりご来場の皆様に御礼を申し上げるとともに、今後も本学へのご支援を賜りますようお願い申し上げ閉会のご挨拶とさせていただきました。

このように、20周年記念市民公開講座は大変な盛況のまま会を終えることが出来ましたが、本稿を閉じるにあたって、今回の市民公開講座の準備や開催にご尽力いただいた教職員の皆様、関係者の皆様に心より御礼を申し上げるとともに、本講座の企画から始まり、著名な講師陣や会場の調整、新聞広告に至るまで直接陣頭を取られた安川学長に御礼を申し上げます。皆様誠にありがとうございました。



「医技大のこれまでの歩みとこれから」

愛媛県立医療技術大学学長 安川 正貴

「臨床検査技師の医療と地域社会への貢献」

愛媛県臨床検査技師会前会長 高村 好実 氏



「愛媛県での新型コロナウイルス感染症の経緯と
感染症人材育成」

愛媛大学医学部感染制御学講座教授 田内 久道 氏

「グローバルな視点からのこれからの感染症対策」

公益財団法人結核予防会理事長

元新型コロナウイルス感染症対策分科会会長 尾身 茂 氏



開学20周年記念事業

記念式典・記念祝賀会

大学開学20周年記念式典・記念祝賀会は令和6年（2024年）9月28日（土）、ANAクラウンプラザホテルを会場に開催し、総勢約140名のご出席をいただきました。出席者には中村時広愛媛県知事をはじめ、本学と関係の深い行政機関や実習病院、教育機関の代表者、ならびに過去20年間に本学に貢献くださった歴代学長や名誉教授、事務局長をお迎えし、盛大かつ心温まる会の開催となりました。司会は元アナウンサーでもあるNPO法人愛媛がんサポートおれんじの会の松本陽子氏にお願いし、大変スマートに進行していただきました。

まず、記念式典は、安川正貴理事長兼学長の式辞から始まり、来賓の愛媛県知事、愛媛県議会議長、看護協会会長、臨床検査技師会会長より祝辞をいただきました。続いて、門屋孝志同窓会（木蓮会）会長から記念品の贈呈を受け、最後に、令和元年に制定した学歌を当時の本学女性合唱団ル・リアンによる歌唱動画とともに斉唱しました。その後、村上博愛媛県医師会会長より「医師と患者は対等である 患者の人権と医師の質 ―Health Care Ethics―」と題する記念講演を、ご自身の闘病体験を交えてお話いただき、記念式典は閉式しました。

続いて、会場を2階のサファイアホールに移動し、記念祝賀会を開催しました。佐川秀紀前砥部町長、仁科弘重愛媛大学学長のご祝辞に続いて、関係各位による鏡開き、本学の非常勤理事並びに愛媛新聞社代表取締役会長である土居英雄会長の乾杯のご発声で祝宴がスタート。祝酒には大学の地元砥部町の日本酒を用意し、特別に、祝いのラベルを貼っていただきました。

祝宴の途中には、20周年記念事業準備委員会が製作した動画「20年のあゆみ」を上映し懐かしく振り返りました。その後は、橋本公二前学長、宮内清子前学部長に在任中の思い出を、開設10周年を迎えた大学院の修了生で現大学教員の仲田琴美助教、現学生自治会長の斎藤歩乃果さんにそれぞれ卒業生・修了生・現役学生の立場から一言メッセージを語っていただきました。なかでも緊張してつまりながら訥々としやべる斎藤さんのスピーチは初々しく、場を温かい雰囲気包んでくれました。参加者は15卓に分かれて座っていましたが、途中からは皆さん席を移動してそこそこで話が盛り上がり、大変和やかな雰囲気を残して閉会となりました。

〈式典〉



理事長兼学長の式辞



動画とともに学歌斉唱



村上愛媛県医師会会長による記念講演

〈祝賀会〉



自治会長斎藤さんのスピーチ

開学20周年記念動画「20年のあゆみ」

開学20周年記念動画を作成する際に一番大事にしたことは「手づくり」です。確かに専門業者に依頼すれば、短期間で見映えの良い記念動画が完成したことでしょう。しかし、それでは「愛媛県立医療技術大学」らしさを表現することができないという結論に至りました。そして、動画のコンセプトは、歴代学長を通して、愛媛県立医療技術大学の20年を振り返っていかうということに決まりました。本学の特徴は、学生と教員の距離が近い砥部の地に根ざした地方大学ということ言うまでもありません。一方で、小さい大学が故に、大学を牽引するリーダーである学長のキャラクターは、大学の方針や活動のみならず、雰囲気にも影響していました。コンセプトが決まった後は、制作班が、試作した動画を周年事業実行委員会で試写し、寄せられた意見を参考に動画を修正するという作業が何度となく繰り返され、「愛媛県立医療技術大学20年のあゆみ」は、お披露目の2週間前に完成にこぎ着けました。



手作りにこだわり空撮も教員が担当しました



ドローンで空撮した本学（グラウンド側上空30mより）

記念品「クリップボード」

在学生への記念品として、クリップボードを選定しました。理由は、看護・臨床検査両学科1年生に「記念品として何を希望しますか？」と調査した結果、クリップボードと回答した人数が最も多かったからです。クリップボードの色は、オレンジ、グリーン、白の3種類で、表面に「EPU 20th」のロゴを印字してもらいました。学部学生には白が一番人気でした。実習や授業の時に、記念のクリップボードをぜひ活用してください。



記念品「砥部焼のカップ」

本学が所在する砥部町の工芸品である砥部焼を記念品としました。砥部焼の伝統を生かしつつ、白と黒をコンセプトに独自のデザインアートを展開されている和将窯・山本和哉さんに制作を依頼しました。愛媛県立医療技術大学Ehime Prefectural University of Health Scienceの頭文字（EPU）と、開学20周年を記念し、「EPU20th」を“愛”ある愛媛にちなんでハート型にデザインしていただきました。



和将窯



来賓の方にはカップと
今治タオル（和将窯デザイン）

大学の風景

活動報告

大学認証評価の受審



国公私全ての大学は、学校教育法に基づいて定期的（7年間に1度）に文部科学大臣の認証を受けた評価機関による第三者評価（認証評価）を受けることが義務付けられています。これは、大学設置後の組織運営や教育研究活動等の状況を定期的に事後確認し大学等の質の担保を図る目的で行われています。本学も大学設置以来3回目となる大学認証評価に向けて令和4年度から準備を開始し、令和5年度に受審をいたしました。書類審査および実地調査等すべての審査が終わるまでの約2年間、全教職員が一丸となって準備に取り組んだ結果、大学として「適合」との認証評価を無事頂くことが出来ました。新たな認証期間は令和6年4月から令和13年3月までとなっています。なお、この認証評価にあっては、ほぼすべての大学に何らかの改善課題や是正勧告およびその対応に関する報告義務が付されますが、本学へはそのような課題や勧告は付されず、本学の運営や教育研究、地域貢献を高く評価していただいた結果となりました。

今回の受審は学内外からのフィードバックを得た貴重な機会であり、今後も自己点検を通じた内部質保証によって、教育研究や大学運営体制の強化を図り、さらなる改善策を講じながら、学生の学びや社会の発展に一層貢献できる大学であり続けられるよう努めてまいります。

ふるさと納税を活用した本学への支援制度の開始

令和6年4月より、砥部町へのふるさと納税を通じて、愛媛県立医療技術大学へのご支援をいただけるようになりました。砥部町のふるさと納税の「希望使い道」メニューから「愛媛県立医療技術大学への支援」をご指定いただくと、寄付金が本学の支援金として活用されます。

ご支援いただいた方には、寄付金額に応じて、砥部焼きや柑橘など砥部町の特産品の中から好きなお礼の品をお贈りいたします。皆さまからの温かいご支援は、学生の学びや国際交流、社会貢献活動、また教育研究施設・設備の整備など、学生支援を中心に活用させていただきます。

今後とも本学へのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



本学ふるさと
納税ページ



遺贈寄付に関する協定締結

令和6年に、本学は、遺贈寄付を目的とした遺言代用信託サービスを活用した遺贈寄付に関する協定を愛媛銀行および伊予銀行と締結しました。



本学が人生の思い出の場となった方や地域医療の発展を願う方々は、本サービスを利用することにより、相続が発生した際に遺言書を作成することなく、本学に寄付をすることができます。寄付金は学生の支援等に活用されます。

本制度に関心のある方は、本学または愛媛銀行、伊予銀行までお気軽にご連絡ください。ご意向に沿った遺贈が行われるよう、両行がサポートいたします。

〈窓口〉

愛媛銀行 089-933-8371
(お客様サービス部/またはお取引店)

愛媛銀行ホームページ



伊予銀行 089-907-1062
(法人コンサルティング部/またはお取引店)

伊予銀行ホームページ



愛媛県総合保健協会CM撮影

本学と包括連携協定を結んでいる愛媛県総合保健協会からの依頼を受け、健診啓発活動の一環として、地域住民の健診率向上を目的としたCM撮影が行われました。撮影にはダンスサークルVIVOの学生さんを中心に参加していただき、本学キャンパス正門付近で元気なパフォーマンスを披露しました。撮影当日は天候にも恵まれ、ダンスチームの息の合ったパフォーマンスが撮影現場を盛り上げました。また、教員も応援役としてダンスチームの背後で大学のマスコットキャラクターや検査器具のパネルを手に参加し、一体感ある撮影が実現しました。本学は大学開学20周年を迎え、この撮影は本学の魅力を広く発信する良い機会となり、地域社会との連携をさらに深めるきっかけにもなりました。



砥部町からの砥部焼製学章ピンバッジの寄贈

令和6年に4年制大学として開学20周年を迎えるにあたり、地元砥部町から学章をあしらった砥部焼製のピンバッジ200個を寄贈していただきました。

学章のデザインには鳩がモチーフとして使われており、その広げた翼は、人々に対する肯定的な関心を象徴しています。また、未来に向かって羽ばたく人を育てる大学の姿を表現し、右の翼の青色は、保健医療に対する科学的なアプローチを意味しています。

なお、砥部町とは令和2年に包括連携協定を締結しており、「教育」「医療」「公衆衛生の向上」や「地域交流」「防災・安全なまちづくり」など、さまざまな分野で連携を深めています。

現在、このピンバッジは教職員がさまざまな場面で着用しており、本学と砥部町の積極的なPR活動を推進しています。



大学公式インスタグラムの開設

令和6年4月より、本学は公式Instagramアカウントを開設しました(@igidai_koho)。SNSを活用し、学内外の活動やイベント情報、学生生活の様子をリアルタイムで発信していきます。Instagramを通じて、学生さんや教職員、地域の皆様とより深くつながり、本学のアットホームな雰囲気や魅力を、受験生を中心に社会の皆さまへ広く伝えることを目的としています。今後、写真や動画コンテンツを活用し、学内のさまざまな取り組みを紹介していきますので、ぜひフォローしていただければと思います。



教員の活動報告

令和6年度「優良看護職員知事表彰」を受彰して（成人・老年看護学講座 教授 松井 美由紀）

このたび、愛媛県優良看護職員知事表彰という大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。私を育て、これまで支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

愛媛県からこの賞を頂けることは、愛媛県立中央病院で看護師としてスタートして20年、その後、愛媛県立医療技術大学で17年間、務めている私にとっては、大変ありがたく感じました。振りかえれば、これまで、愛媛県の看護職の人材育成に貢献できればいいなと思い、活動してきたように思います。愛媛県立病院では、教育担当看護師長として看護職の教育に携わり、大学や大学院でも教員として学生に対する教育に関わっています。さらに、愛媛県看護協会でも、教育理事としての活動に加え、次世代の看護管理者教育や臨地実習指導者などに対する教育にも関わらせていただいています。今も、活動が継続できているのは、私だけの力ではなく、周囲からのサポート、励ましや承認が原動力になっているのではないかと思います。

これからも「我以外皆師也」という気持ちを大切に、より一層精進し、次世代の看護を担う人づくりに貢献できればと思います。

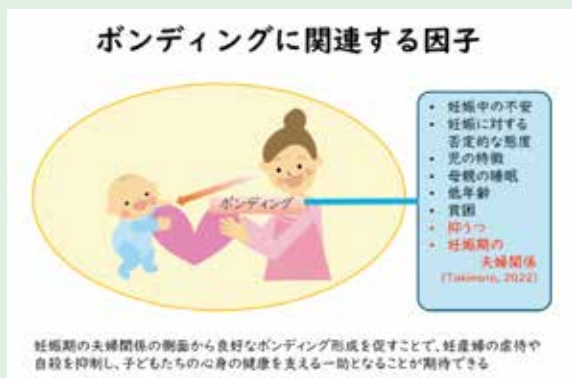


愛媛県看護協会看護管理者研修
ファーストレベルでの研修風景

愛媛県内の看護職対象の研修風景

第38回日本助産学会学術集会 一般演題優秀演題賞を受賞して（母性・小児看護学講座 講師 瀧本 千紗）

このたび、日本助産学会より受賞の栄誉をあずかり、身に余る光栄と感じております。本研究では、母親172名、父親141名の妊娠期から産後4か月までを追跡調査しました。その結果、妊娠期の夫婦関係が、産後4か月のボンディング(親が子に対し「可愛い、愛おしい」と思う感情で、新生児虐待や産後うつ(素因)を予測することが明らかになりました。調査していた頃はちょうどコロナ禍で、調査依頼に大変苦労いたしました。しかしながら、多くの子育て中のご両親、医療・保健機関の方々のご協力を賜りましたこと、ここに改めてお礼申し上げます。現在はこの研究を軸に、3歳までの追跡調査を行っています。今後も研究成果を教育・臨床に還元すべく精進してまいります。



対象	内容	妊娠期	産後1週	産後1か月	産後4か月
母親	育児支援チェックリスト	○	○	○	○
	母子健康手帳記載の分娩情報	○	○	○	○
両親	その他	○	○	○	○
	抑うつ状態 (EPDS)	○	○	○	○
	ボンディング (MIBQ)	○	○	○	○
	夫婦関係 (夫婦関係満足尺度)	○	○	○	○

妊娠中 → 産後1週 → 産後1か月 → 産後4か月

質問紙調査 Web調査

第43回福見秀雄賞を受賞して（生体情報学講座 教授 則松 良明）

この度、公益財団法人 黒住医学研究振興財団より、第43回福見秀雄賞を受賞しました。この表彰は、臨床検査領域に半生を捧げ、技術の開発・向上に努力し、その領域の発展への指導的役割および人材育成に貢献のあった臨床検査技師に贈られるものであり、大変栄誉なことであり身が引き締まる思いです。

振り返ってみるに私の臨床検査技師/細胞検査士になってからの半生は、昭和62年に日本臨床検査技師会病理検査研究班から始まり、同会細胞検査研究班、岡山県臨床衛生検査技師会理事(総務部長/学術部長)など、関係団体で何かしらの役をさせていただき、多くの諸先輩から沢山の事を学ばせていただきました。研究では子宮内膜細胞診領域での細胞診断法の確立を目指した研究がライフワークとなり、平成25年に国際細胞学会から“The International Cytotechnologist Award”を受賞しました。その成果は、令和4年にSpringer Natureから“The Yokohama System for Reporting Endometrial Cytology Definitions”として出版されました。

最後になりましたが、教員生活ももうすぐ終わりますが、残された時間を研究や大学運営など本学の発展のため力を尽くす所存です。



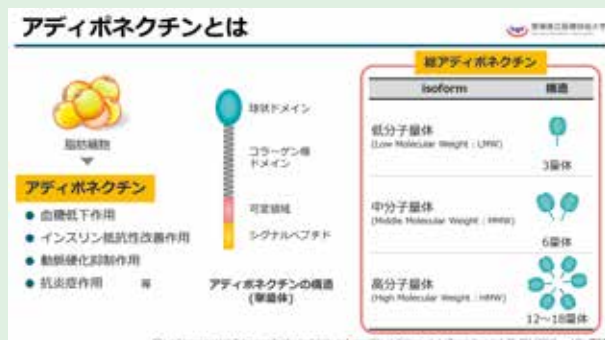
愛媛県立医療技術大学
臨床検査学科長/
大学院医療技術科学専攻長

教授 則松 良明



第34回生物試料分析学会年次学術集会 優秀演題賞を受賞して（生体情報学講座 助教 矢野 弘子）

この度、生物試料分析学会より優秀演題賞を賜り、誠に光栄に存じます。本研究では、新居浜市の働き世代の男女75名（男性45名、女性30名）を対象に、血清中の総アディポネクチンおよび各isoformと歩行運動との関係について検討を行いました。その結果、女性において総アディポネクチンと高分子量体の有意な上昇を認め、他のisoformにおいては性別や歩数による差異を確認することができました。本研究は、臨床検査学科と看護学科、さらに愛媛県新居浜市の官学共同研究の一環で実施されました。本学の取り組みが、愛媛県の皆様の健康に貢献できたことを大変嬉しく思います。



大学院の活動

細胞診検査学習支援プログラムの開講（医療技術科学専攻）

本学入学後も細胞検査士資格取得の希望を持ち続ける学生が毎年存在している状況の中、本学大学院修士課程、医療技術科学専攻では、大学院在学中に細胞検査士資格を取得するために、2023年度から細胞診検査学習支援プログラムコースを開講する運びとなりました。今年度、資格認定試験に本コース所属の2名が挑戦し、見事、合格を勝ち取りました。本試験は一次試験、二次試験があり、最終的に合格率が三割程度と超難関の認定資格試験です。



大学院生のコメント

私たちがこのコースの1期生となるため、どのように勉強を進めたらよいかの前例がなく、手探り状態での勉強で不安はありましたが、指導して下さる先生方のおかげで試験に臨む自信をつけることができ、無事合格することができました。

ぜひ、細胞検査士の資格に興味のある方は、本コースへの進学を考えてみてはいかがでしょうか。



看護学専攻オープンキャンパスの開催

2024年7月12日に、看護学専攻を対象とした大学院オープンキャンパスを初開催しました。

研究科長から概要や研究の進め方などの紹介を行い、領域ごとに分かれてディスカッションを実施しました。参加者からは、教員や院生・修了生との交流を通して、「どのように研究を進めたらよいのか」や「仕事や家庭との両立はうまくできるのか」などの疑問を解決できたという声も多く、有意義な機会になったようです。



令和6年度 教職員紹介

看護学科

池田 絵里 助教

成人・老年看護学講座

Eri Ikeda



2024年4月より成人・老年看護学講座に着任いたしました池田絵里と申します。これまでは、四国や九州地方の病院で看護師として働いていました。大学教員としてはまだまだ未熟であり、慣れないことに戸惑うことも多くありますが、周りの先生方に支えていただき、現在に至っています。

私が教員となるきっかけの一つに、大学院時代の経験が影響しています。当時、学生の演習や実習に携わり、能動的な学習姿勢、看護実践の意味を言葉にする表現力、講義で得た知識・技術を臨地実習で応用していく力を目の当たりにしました。この時の経験から、教育に対する関心が高まり、さらに教育力や研究力を高めていきたいと思うようになりました。今後は、地元である愛媛で、看護に興味・関心を持った看護専門職の育成と本学のさらなる発展の一助となれるよう尽力したいと考えています。よろしくお願いいたします。

看護学科

赤根 映里子 特定教員

母性・小児看護学講座

Eriko Akane



母性・小児看護学講座に着任いたしました赤根映里子です。これまで、県内の病院、クリニックで助産師として勤務してきました。臨床での学生指導をきっかけに、教育に興味を持ち、本学へ特定教員として勤務すると同時に、大学院へ進学することとなりました。今までとの環境の違いに戸惑いを感じることもありますが、たくさんの方々に支えられ、学びを積み重ねている日々を過ごしています。

教育という新たな現場では、言葉で伝えることや学びを支えることの難しさを感じつつ、臨地実習指導をしていた時よりも学生と密に関わることができるため、日々成長していく学生を支えることの楽しさややりがいも感じています。

まだまだ教員として未熟ではありますが、臨床での経験を活かし、教育や研究に尽力していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

図書館

小早川 のぞみ 職員

司書

Nozomi Kobayakawa



学生時代、夏休みに図書館でのアルバイトを経験したことが、司書を志すきっかけとなりました。20代の頃は事務職に従事しながら図書館司書の資格を取得し、実際に図書館で勤務するようになったのは、4年前に本学の図書館に採用されてからです。

図書館には、授業の空き時間を使って学びを深める学生たちが多くいます。「連休に家では集中できないので、図書館で国家試験の勉強をしている」と話してくれた学生の姿が特に印象的でした。確かな目標を持って努力する彼女らの姿に、日々刺激を受けています。自分も学生時代を追体験しているように感じることもあります。年齢的には私の子ども世代にあたりますが、その芯の強さには感心させられます。

私は、図書館業務を通じて学生たちの学びを支えつつ、職員として彼らの成長を見守りたいと思います。そして、私自身も日々努力を重ねていきたいと考えています。

図書館

石井 三枝子 職員

司書

Mieko Ishii



令和2年より大学図書館に夜間勤務しております石井三枝子と申します。私は愛媛大学教育学部を卒業後、近畿大学にて図書館司書の資格を取得致しました。司書としての経歴は小学校で図書司書として児童図書の選書や受け入れ、図書委員会の活動やお話会の運営に携わって参りました。その後、愛媛大学附属病院に設立された患者図書室の司書として勤務致しました。患者図書室ではインフォームド・コンセントの充実のためにIC支援看護師の方たちと協同して患者さんへの医療図書のレファレンス業務や医療DVDの上映会等行って参りました。また患者図書室内には病院ボランティアさんが管理されている一般図書コーナーもあり、病院ボランティアさんから患者さんへの対応等たくさんの事を勉強させて頂きました。

本学でも学生の皆さんと先生方の学びと研究に貢献できるよう、尽力したいと思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

地域に開かれた大学づくり 地域交流センター (EPU-Local Community Center) 事業

地域交流センターは、2004年（平成16年）の開学以来、地域と大学を結びつける活動を継続しています。県内の保健・医療・福祉の質向上を通して、県民や地域住民の健康を維持、増進に貢献することを目指し、地域交流センターの4つの機能を発揮するために、様々な事業を展開しています。

地域交流センターの機能と各種事業

機 能		事 業 名
人材育成	専門職	思春期保健スキルアップセミナー
		保健師の多様な働き方セミナー
		細胞診検査における人材育成のためのリカレント教育
		愛媛県看護教員継続教育研修 等
	一般・学生	学生と若手技師との合同スキルアップセミナー
		えひめ高校生生命科学研究プログラム
		子ども科学教室
		高校生 臨床検査体験プログラム 等
相談支援		臨床看護研究相談室／研究や研修に対する相談 等
情報発信		ホームページ・広報誌での発信／活動報告書の発刊
その他（地域交流など）		ホームカミングデー
		麻生小学校「地区探検」大学訪問見学
		子育てフェスタ（お仕事体験）への参加

令和6年度活動実績

高校生臨床検査体験プログラム

愛媛県内の高校生を対象に、臨床検査技師への理解を深めることを目的とした臨床検査体験プログラム【3領域（免疫血清/輸血検査領域、臨床化学/遺伝子検査領域、病理/血液検査領域）】を体験してもらいました。



子育てフェスタ（お仕事体験）

砥部町子育てフェスタにて、本学は看護師・助産師・臨床検査技師のお仕事体験ブースを設けて、子ども達とその保護者の方に聴診器を用いた聴診、新生児モデルの抱っこ体験、尿検査、超音波検査などを体験してもらいました。



図書館紹介

専門員(図書館司書) 泉 浩
Hiroshi Izumi

今年度、大学と同様に図書館も20年を迎えました。この機会に、図書館の20年を簡単に振り返りたいと思います。

愛媛県立医療技術短期大学開学にあわせて設置された図書館は、20年前に「愛媛県立医療技術大学図書館・愛媛県立医療技術短期大学図書館」の名称で、平日の9:00～19:00の開館時間でスタートしました。その後、コピー機、図書返却ポスト、文献検索用PC、展示ケース、別館書庫等次々と整備され、さらにHPを開設する等、今につながる図書館機能を充実してきました。

2015年には図書館の目指す方向性を定めた「愛媛県立医療技術大学図書館アクションプラン」を策定し、これまで断片的だった施策を統合し可視化することで、改善のスピードを上げることを目指しました。図書館サポーターの結成、ラーニングコモンズの設置、SNSの運用開始、開館時間の延長、学内外の関係機関と連携した展示等、アクションプランの多くの事業が実現しました。特に図書館サポーターの結成により、学生と連携した運営が進み、マスコットキャラクター「える」の誕生やグッズの作成、ブックハンティング、本の福袋他、小さな改善を含めれば数えきれないほどの取り組みが実現しています。

今年度は新たな試みとして、本棚オーナーが自由に本棚を活用できる「シェア本棚」を始めました。

データベース・電子ジャーナルに続き電子ブックが普及し、図書館の利用方法は日々変化しています。時代に取り残されないよう、図書館も引き続きアップデートを行いますので、ぜひご期待ください。

図書館利用案内【学外の方の利用案内】

- 利用時間 平日 8:40～21:00
土曜日9:10～18:00
- 図書借出 借出冊数と期間は、5冊2週間です。
- 資料宅配サービス 送料をご負担いただきご自宅に希望の資料をお送りします。
- 電子リソース データベース、電子ジャーナル、電子ブックを利用できます（一部利用できないものあり）。
1枚10円でプリントアウトも可能です。
【利用可能な電子リソース（一部）】
 - ・医央誌Web ・最新看護索引Web
 - ・メディカルオンライン
 - ・国立国会図書館デジタルコレクション
 - ・SCIENCE
 - ・MEDLINE with Fulltext
 - ・CINAHL with Fulltext
 - ・Maruzen eBook Library
- 公衆無線LAN 持ち込み用PCやタブレットでインターネットに接続できます。
- SNS 図書館facebook
<https://www.facebook.com/EhimePULib/>
図書館X
<https://twitter.com/EhimePULib>



Information

【インフォメーション】

図書館利用案内《学外の方の利用案内》



利用時間 平日／8:40～21:00 土曜日／9:10～18:00

図書借出 借出冊数と期間は、5冊2週間です。

資料宅配サービス 送料をご負担いただきご自宅に希望の資料をお送りします。

電子リソース データベース、電子ジャーナル、電子ブックを利用できます（一部利用できないものあり）。
1枚10円でプリントアウトも可能です。

【利用可能な電子リソース（一部）】

- ・医史誌 Web
- ・最新看護索引 Web
- ・メディカルオンライン
- ・国立国会図書館デジタルコレクション
- ・SCIENCE
- ・MEDLINE with Fulltext
- ・CINAHL with Fulltext
- ・Maruzen eBOOK Library

公衆無線 LAN 持ち込み用PCやタブレットでインターネットに接続できます。

S N S 図書館 facebook <https://www.facebook.com/EhimePULib/>
図書館 X <https://twitter.com/EhimePULib>

令和7年度 学年暦(予定)

- 春季休業日……………～3月31日
- ガイダンス等……………4月1日～3日
- 入学式……………4月3日
- 進路セミナー（第1回）（講演）……………4月3日午後（3・4年生）
- 前期授業……………4月4日～7月28日
- 健康診断……………4月11日午前
- 新入生オリエンテーション……………4月11日午後
- 交通安全講習会……………4月24日午前
- 進路セミナー（第2回）（職業紹介）……………4月24日午後（3・4年生）
- 内科検診……………5月17日午後・24日午後
- 大学院医療技術科学専攻オープンキャンパス（第1回）……………6月中旬
- ホームカミングデー……………6月14日
- 開学記念日……………6月20日
- 大学院看護学専攻オープンキャンパス……………7月12日
- 前期試験……………7月29日～8月4日
- 夏季休業日……………8月7日～9月30日
- 助産学専攻科の夏季休業日……………（8月6日～8月29日）
- 助産学専攻科オープンキャンパス……………8月7日
- 第1回オープンキャンパス……………8月8日～9日
- 再試験期間……………8月18日～22日

- 大学院入試（一般入試・社会人特別選抜入試）……………9月6日
- 後期授業……………10月1日～2月3日
- 大学院医療技術科学専攻オープンキャンパス（第2回）……………10月4日
- 防災訓練……………10月17日2時限
- 学生祭「EPU Festival」……………10月18日～19日
- 第2回オープンキャンパス……………10月18日～19日
- 学部 学校推薦型選抜入試……………11月15日
- 学部 社会人特別選抜入試……………11月15日
- 助産学専攻科入試……………11月16日
- 冬季休業日……………12月26日～1月4日
- 大学入学共通テスト……………1月17日～18日
- 後期試験……………2月4日～10日
- 学部 一般選抜入試（前期日程）……………2月25日～26日
- 学部 私費外国人留学生特別選抜入試……………2月25日
- 再試験期間……………2月24日～3月4日
- 学部 一般選抜入試（後期日程）……………3月12日
- 卒業式・修了式……………3月19日
- 春季休業日……………3月20日～

日程など詳細は大学ホームページをご参照ください。
<https://www.epu.ac.jp/campus/calendar/index.html>

広報誌「砥礪（しれい）」の意味について

『砥礪（しれい）』とは、「①砥石（といし）②とぎみがくこと」とあり、さらに「学問、修養などを高めようと努力すること【大辞泉：小学館】」などの意味があります。平成16年に大学が開学して1年経った平成17年に、大学の位置する砥部町にちなむとともに、大学広報誌の名称としてふさわしいということで多くの賛同を得て決定された経緯があります。

公立大学法人 愛媛県立医療技術大学

〒791-2101 愛媛県伊予郡砥部町高尾田543番地
TEL 089-958-2111 FAX 089-958-2177
ホームページ <https://www.epu.ac.jp/>



編集後記

本学は、前身である愛媛県立医療技術短期大学から、2004年（平成16年）4月に4年制の愛媛県立医療技術大学となりました。

2024年度は、開学20周年を迎えた記念すべき年度でした。これを記念し、砥礪21号では、20年のあゆみを振り返り、20周年記念事業の全貌を細やかに紹介させていただきました。

また、「大学の風景」「大学院の活動」では、「医技大」の新たな歴史を刻むべく、日々の活動に邁進する学生や院生・教職員の活躍をお伝えしております。

これまで本学に関わってくださった皆様が築きあげてきた歴史と共に、大学の「今」を感じて頂ければ幸いです。

最後になりましたが、お忙しい中、原稿をお寄せいただきました皆様に、心から感謝申し上げます。

広報委員会一同